



東日本大震災から10年を経た、2021年が暮れようとしています。
あの未曾有の震災で傷ついた人々の心を、癒し、励まし、勇気づけてくれたのは「音楽」の力でした

将来に向かって進もうとする

“いま”こそ、

「音楽」によってこれまでの歩みを振り返り

明日への扉をひらくために、

コンサートを開催いたします

Program 《プログラム》

リスト

交響詩「レ・プレリュード」

“ピアノの魔術師”リストが作曲したオーケストラ曲。「レ・プレリュード」=「前奏曲」は、人が誕生してから一生を終えるまでのドラマを、音楽で描ききった作品。愛、嵐、田園、戦いという、緩・急の交錯する4つの場面を「前へ」進み、高らかな勝利に向かう。

ブルッフ

ヴァイオリン協奏曲第1番

2020年に没後100年を迎えた作曲家ブルッフの代表作。瑞々しさと抒情美にあふれる愛される傑作を、次世代を担う若きカ・山根一仁と仙台フィルの共演で聴く。大震災後には自身も仙台フィルメンバーと一緒に復興コンサートに取り組んだ、山根の熱い想いととも。

ドヴォルザーク

交響曲第8番ト長調

交響曲第9番「新世界より」と人気を分かち、ドヴォルザークの傑作。より一層チェコ的な交響曲第8番には、故国チェコ/ボヘミアへの作曲家の愛情が溢れている。魅力的なメロディは心を揺さぶり、ワルツはどこまでも美しくしなやかに、明るく力強く、爽やかなクライマックスへ。

Profile 《プロフィール》

《指揮》高関 健(仙台フィル レジデント・コンダクター)

国内主要オーケストラで重要ポジションを歴任。海外への客演も多く、 Санктペテルブルグ・フィル定期演奏会では聴衆や楽員から大絶賛を受ける。マルタ・アルゲリッチをはじめとする世界的ソリストや作曲家からも絶大な信頼を得ている。現在、東京シティ・フィル常任指揮者、仙台フィルレジデント・コンダクター、富士山静岡響首席指揮者、東京藝大指揮科教授兼藝大フィル首席指揮者。第50回サントリー音楽賞(2018年度)受賞。

《ヴァイオリン》山根 一仁

1995年生まれ。第79回日本音楽コンクール第1位。これまでにバーミンガム市交響楽団、ミュンヘン交響楽団をはじめ国内外のオーケストラと共演を重ねる。テレビ、ラジオではNHK『ららら♪クラシック』、TV朝日『題名のない音楽会』等に多数出演している。横浜文化賞文化芸術奨励賞(最年少)、岩谷時子音楽財団Foundation for Youth賞、青山音楽賞新人賞、出光音楽賞、ホテルオークラ賞等受賞。明治安田クオリティオブライフ文化財団奨学生。現在ミュンヘン音楽大学にてクリストフ・ポッペン氏に師事。

仙台フィルハーモニー管弦楽団

1973年創立。2011年の東日本大震災による影響で数ヶ月にわたり演奏活動を中止せざるを得ない状況となったが、「音楽の力による復興センター・東北」と協力し音楽を被災者のもとに届け絆をつむぐ「復興コンサート」に取り組み、2011年度エクソンモービル音楽賞洋楽部門本賞と渡邊暁雄音楽基金特別支援を受賞。2013年には(独法)国際交流基金主催のロシア公演で被災地を代表して演奏した。震災後の仙台フィルを追った2016年NHK-Eテレでのドキュメンタリー番組「音楽になにができますか」は、全国的に大きな反響を呼んだ。

現在、「杜の都」仙台の音楽文化における中心的役割を担うとともに、年100回を超える積極的な演奏活動を展開している。

100名様
ご招待

東日本大震災で半壊以上の被害を受けた方:先着100名をご招待いたします [1世帯3名様まで 未就学児不可]

往復はがきに次の事項を記載のうえ【12月10日[金] 必着 までに】お申し込みください。

- 1 演奏会名(仙台フィルハーモニー管弦楽団「明日へのコンサート」)
- 2 住所・氏名・電話番号(世帯で複数人の場合は、希望する全員の氏名)
- 3 市町村で発行した「防災証明書」の証明番号 及び 世帯主名
- 4 被害の程度(全壊・大規模半壊・半壊)

宛先

〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-3-9
仙台フィルハーモニー管弦楽団
「明日へのコンサート・招待」係